

ヒマラヤユキノシタ

牧 幸 男

長野県は冬期間、自然界で咲く植物の花は少ないが、ヒマラヤユキノシタは別種である。40年程前までは私はこの植物を知らなかった。いつ頃か定かでないが、この植物を身近で目にするようになると、意外に多くの場所に生育していることを知った。当初はか弱い植物かと思っていたが、非常に元気な植物で驚いた記憶がある。ヒマラヤユキノシタは、早春のまだ寒さや残雪が残る時期に、やさしいピンクの花が咲く。花期が長く次々と花が咲くので楽しみな植物である。早春に咲く花は黄色の花が多いので、ピンクの花は珍しいといつも想っていた。

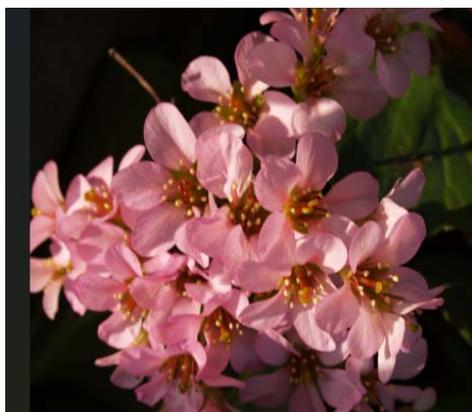
原産地は南アジアのヒマラヤ地方に生育するユキノシタ科の常緑多年草である。我国への渡来時期は、明治初期と記録があるが、詳細は不明である。この植物について記述したいと思い、文献を調べ始めた。しかし、国内の文献に詳しい記述は見当たらなかった。今回は、『新訂新日本植物区鑑』とネパールで入手した“HND BOOK OF MEDICAL PLANTS OF NEPAL”を参考にした。

ヒマラヤユキノシタはヒマラヤ地域の3,000m以上まで分布し、大きな株を作り根性葉はロゼット状である。原種がヒマラヤ産だけに、 -35°C ~ 46°C の極端な気候に生育可能である。現地では雪が積もっていてもその下で緑の葉を茂らせているらしい。葉身は倒卵形で、基部は細まって柄につながる。葉は革質で厚みのある楕円形で大きく地面に張りつくように広げ、どっしりとした安定感がある。葉の長さは20~30 cm、質は柔らかく、ふちには低いゆるやかなきょ歯がある。早春から夏にかけて、太い莖を株の中心から出し、大きな円錐花序をつくって多数の花を密に付ける。花莖の高さは30 cmにもなり、葉よりも高い。花は1~3 cmの深いカップ状の5弁があり、開花時は白っぽいが、やがてピンクから鮮やかな濃いピンク、紫色に変化する。

寒さが激しいと葉が赤っぽくなる。庭に植えてあると、自然増殖し気がついたときには大きな株になっており、年数を経るごとに風格も増し、植種は多く、園芸品種が多数育成されており、利用の比較的多い品種を列挙すると、



ヒマラヤユキノシタ



- ・和名はヒマラヤユキノシタ *B.stracheyi*、古くから栽培されピンクの大きな花房をつける。
- ・和名はシベリアユキノシタ *B.cordifolia*、大形の花が咲き葉は円系、中国名は地白菜盤龍七である。
- ・和名はナガバユキノシタ *B.crassifolia* 葉は長い楕円形。中国名は厚葉巖白菜である。
- ・ベルゲニア・プルプラッセンス *B.purpurascens* 花穂が長く花色は濃いローズ色。中国名は印度巖白菜である。
- ・*B.purpurascens* var. *delavayi* 中国名は西南巖白菜である。

の4種で、その他ベルゲニア・キリアータ・エロイカ・モルゲンローテ・ベビー・ドール・マジック・ジャイアント・ウィンター・グ
ロー・シルベルリヒト（シルバーライト）が生育している。

日本へは当初観賞用に渡来した。寒さに強いので北海道から九州まで、屋外で広く栽培されるようになった。この植物を詠んだ俳句、短
歌を搜したが、新しい植物で字数が9音のため、対象になりにくいが、最近の歌人に詠まれるようになった。

ヒマラヤユキノシタの 紅(あか)き茎 おし立てて 咲きける花に 春の陽のさす 木下利玄^{りげん}

ヒマラヤユキノシタ 冬の日に 厚き葉を ひろげてをれば 光あつまる 佐佐木幸綱

ヒマラヤユキノシタ 足元照らす 春の色 荒 野人

再訪は ヒマラヤユキノシタ 咲く頃に 乙部妙子

植物名は、葉が雪の下から芽を出すことから「雪の下」が付き、ヒマラヤユキノシタと呼ばれている。別名には学名をそのままのベルゲ
ニア、葉が大きいので大岩団扇^{おおいわうちわ}、岩団扇、葉が大きいのでエレファントイヤールと呼ぶことがある。漢名は、短柄巖白菜^{たへいがんばくさい}である。

学名は、*Bergenia stracheyi*、属名はドイツ人植物学者・医師カール・アウグスト・フォン・ベルゲン Karl August von Bergen (1704
~1759) による。種小名はヒマラヤ地域の植物学者としても知られるリチャード・ストラチェイ卿 Sir Richard Strachey (1817~1908) に
よる。

薬用は、消炎・排膿（切り傷、火傷、腫物など）、健胃・解毒・解熱（風邪、百日咳など）、利尿、美白効果（日焼けによるしみ、そばか
すの予防）など、多岐にわたる効果があると記述がる。民間療法では、葉のしぼり汁を塗布したり、煎じて服用したりする方法がある。中
国の、『中薬志』（1955~1961）の記述では、次の4種厚葉巖白菜、印度巖白菜、西南巖白菜、地白菜盤龍七^{たへいがんばくさい}、短柄巖白菜が薬用となっ
ている。

用途は、花期が長く常性であり、草姿が乱れないため、グラウンドカバーや、花壇、鉢、ロックガーデンなど応用が広い。また、この
植物地表を覆うように生育するので、土壌の流出防止や、雑草防止に役立っている。但し、鉢植えや寄せ植えには向かないようだ。葉や
茎にタンニンを多く含むので、ロシアでは製革用に使用している。

花言葉は、「秘めた感情」「傾心」「忍耐」である。

